

# 鹿児島県障害者スポーツ 普及検討委員会

## 第1回検討委員会



平成28年2月4日（木）  
鹿児島県庁6階大会議室

※ 中央の図は、全国障害者スポーツ大会のシンボルマークです。

# 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会

## 第1回検討委員会 資料目次

- ・ 資料1 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会  
設置要綱 … 1
- ・ 資料2 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会  
役員を選出について … 5
- ・ 資料3 全国障害者スポーツ大会の概要について … 7
- ・ 資料4 第20回全国障害者スポーツ大会に向けた  
障害者スポーツの普及拡大の取組について … 11
- ・ 資料5 鹿児島県の障害者スポーツの  
現状と課題について … 13

## 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会設置要綱

### (名称)

第1条 本会は、鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会（以下「委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 委員会は、第20回全国障害者スポーツ大会（以下「鹿児島大会」という。）の開催に向けて参加選手の確保・育成を図るとともに、鹿児島大会の開催を契機として、障害者スポーツを普及拡大し、障害者の社会参加の促進を図ることを目的とする。

### (事業)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大会に向けた選手の確保及び育成に関すること。
- (2) 福祉関係団体、競技団体等との連携に関すること。
- (3) 障害者スポーツの普及に関すること。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、選手の確保及び育成に必要な事項に関すること。

### (構成)

第4条 委員会は、別表に掲げる機関又は団体から推薦があった者により組織する。

2 委員は、鹿児島県保健福祉部長が委嘱する。

### (役員)

第5条 委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1人
- (2) 副委員長 1人

### (役員を選出)

第6条 委員長は、鹿児島県保健福祉部障害福祉課長をもって充てる。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

### (役員の職務)

第7条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (任期等)

第8条 委員の任期は、委嘱されたときから第12条の規定により委員会が解散するときまでとする。

2 前項の規定にかかわらず、委員に委嘱された者が、その属する機関又は団体を離れたときは、当該委員は、辞任したものとみなす。

3 前項の規定により委員が欠けたときは、当該委員の属していた機関又は団体

から推薦があった者を委嘱するものとする。

4 委員長は、委員に特別の事情が生じたときは、その職を解き、必要に応じて補充することができる。

5 委員長は、前3項の規定により委員の変更があった場合は、次の会議において報告する。

#### (会議)

第9条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長、副委員長及び委員をもって構成する。

2 会議は、委員長が招集する。

3 会議の議長は、委員長又は委員長が指名した者がこれに当たる。

4 会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

5 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

6 会議に出席できない委員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の者を代理人として表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

7 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

#### (庶務)

第10条 委員会の庶務は、鹿児島県保健福祉部障害福祉課において処理する。

#### (その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

#### (解散)

第12条 委員会は、第2条の目的が達成されたときに解散する。

#### 附 則

この要綱は、平成28年2月2日から施行する。

別表(第4条関係)

鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会構成団体

機 関 ・ 団 体 名
社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会
一般社団法人 鹿児島県視覚障害者団体連合会
一般社団法人 鹿児島県聴覚障害者協会
鹿児島県知的障害者福祉協会
社会福祉法人 鹿児島県手をつなぐ育成会
NPO法人 鹿児島県精神保健福祉会連合会
鹿児島県障害者スポーツ協会
鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会
公益財団法人 鹿児島県体育協会
一般財団法人 鹿児島陸上競技協会
鹿児島県水泳連盟
一般社団法人 鹿児島県サッカー協会
鹿児島県バレーボール協会
一般社団法人 鹿児島県バスケットボール協会
鹿児島県卓球連盟
鹿児島県ソフトボール協会
鹿児島県アーチェリー協会
鹿児島県ボウリング連盟
鹿児島県障害者フライングディスク協会
鹿児島県特別支援学校長会
鹿児島県教育庁保健体育課
鹿児島県総合体育センター
鹿児島県保健福祉部障害福祉課

(余白)

## 鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会役員の選出について

### 【鹿児島県障害者スポーツ普及検討委員会設置要綱 抜粋】

#### (役員)

第5条 委員会に次の役員を置く。

- (1) 委員長 1人
- (2) 副委員長 1人

#### (役員を選出)

第6条 委員長は、鹿児島県保健福祉部障害福祉課長をもって充てる。

2 副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

#### (役員の職務)

第7条 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

委員長 1人	副委員長 1人
障害福祉課長 橋口 秀仁	

(余白)



# 全国障害者スポーツ大会の概要について

## 1 目的

障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とする。

※ 全国障害者スポーツ大会開催基準要綱（以下、「開催基準要綱」という。）より

## 2 基本方針

### 【開催基準要綱より抜粋】

- (1) 大会は、毎年1回開催し、各都道府県の持ち回りとする。
- (2) 大会は、毎年実施される国民体育大会本大会の直後を原則として、当該都道府県において3日間で開催する。
- (3) 競技運営は、公益財団法人日本体育協会に加盟する開催地都道府県の関係競技団体等が主管する。
- (4) 実施競技・種目は、全国障害者スポーツ大会競技規則による。
- (5) 競技施設は、原則として、国民体育大会本大会の会場を使用する。

## 3 主催者

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、文部科学省、開催地都道府県・開催地市町村、関係団体

## 4 開催状況

平成13年度に、「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」が統合され、「全国障害者スポーツ大会」として、第1回大会が宮城県で開催。

第8回大分県大会から精神障害者のバレーボールが正式種目となった。

### 【開催県・開催予定県一覧】

回数	開催年度	開催都道府県	大会の愛称	大会のスローガン
第1回	平成13年	宮城県	翔く・新世紀みやぎ大会	感動体験2001
}	}	}	}	}
第8回	平成20年	大分県	チャレンジ!おおいだ大会	笑顔、元気、ともに未来へ 新たな一歩
}	}	}	}	}
第13回	平成25年	東京都	スポーツ祭東京2013	東京に 多摩に 島々に 羽ばたけアスリート
第14回	平成26年	長崎県	長崎がんばらんば大会	君の夢 はばたけ今 ながさきから
第15回	平成27年	和歌山県	紀の国わかやま大会	躍動と歓喜、そして絆
第16回	平成28年	岩手県	希望郷いわて大会	広げよう 感動。伝えよう 感謝
第17回	平成29年	愛媛県	愛顔つなぐえひめ大会	君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え
第18回	平成30年	福井県	福井しあわせ元気大会	織りなそう 力と技と美しさ
第19回	平成31年	茨城県	いきいき茨城ゆめ大会	翔べ 羽ばたけ そして未来へ
第20回	平成32年	鹿児島県	燃ゆる感動かごしま大会	熱い鼓動 風は南から

## 5 実施予定競技と参加選手数

(1) 正式競技…全国障害者スポーツ大会競技規則に定められた個人競技及び団体競技

(平成26年長崎大会実績)

	競技名	障害区分	全都道府県参加選手数
個人 競 技	陸上競技	身体・知的	1,000人
	水泳	身体・知的	312人
	アーチェリー	身体	57人
	卓球 (サウンドテーブルテニス含む)	身体・知的	307人
	フライングディスク	身体・知的	396人
	ボウリング	知的	159人
	個人競技計		2,231人
団 体 競 技	バスケットボール	知的	154人
	車椅子バスケットボール	身体	79人
	ソフトボール	知的	103人
	グランドソフトボール	身体	97人
	バレーボール	身体・知的・精神	359人 (身130人, 知149人, 精80人)
	サッカー	知的	112人
	フットベースボール	知的	97人
団体競技計		1,001人	
合計		3,232人	

(2) オープン競技…広く障害者の間にスポーツを普及する観点から有効と認められるものについて、主催者間で協議のうえ実施

先催県	実施競技
大分県 (H20)	ふうせんバレーボール, 卓球バレー
新潟県 (H21)	車椅子ダンス, 車椅子ツインバスケットボール, フロアホッケー
千葉県 (H22)	ライフル射撃, 車椅子ツインバスケットボール, ボッチャ, 車椅子レクダンス
山口県 (H23)	卓球バレー
岐阜県 (H24)	脳性まひ者7人サッカー, 車椅子ツインバスケットボール, 障害者ゴルフ
東京都 (H25)	バドミントン, ゴールボール, 精神障害者フットサル等 計17競技
長崎県 (H26)	ふうせんバレーボール, 視覚障害者ボウリング
和歌山県 (H27)	車椅子テニス, 卓球バレー
岩手県 (H28)	ビリヤード, 卓球バレー, ゲートボール, ペタンク
愛媛県 (H29)	肢体障害者ボウリング, ブラインドテニス, 精神障害者フットサル

## 6 参加選手団

(1) 参加者 都道府県・指定都市の選手（13歳以上の障害者）及び役員

(2) 参加者数

選手 約3,500人	} 計 約5,500人
役員 約2,000人	

7 競技役員・ボランティア（人数は平成26年長崎大会基本計画より）

（単位：人）

区分	人数	内容
競技役員等	2,600人	競技役員 1,340人 競技補助員 1,260人
ボランティア	大会運営	案内, 会場整理・美化・サービス, 式典補助, ふれあい広場運営補助等
	選手団サポート	選手団の 歓送迎・介助・誘導, 交流等
	情報支援	手話 (300人) 要約筆記 (手書き200人, PC100人)
合計	7,500人	

8 参加者総数（3日間, 延べ人数）（平成26年長崎大会実績）

（単位：人）

区分	開会式	正式競技 (3日間)	閉会式	オープン 競技	計
選手・監督	5,512	15,188	5,367	420	26,487
大会関係者	10,217	17,319	5,682	235	33,453
観覧者	7,621	29,012	3,943	381	40,957
合計	23,350	61,519	14,992	1,036	100,897

9 本県の参加状況（過去2年間）

競技	区分	第14回長崎大会 (H26)		第15回和歌山大会 (H27)	
		参加者数	メダル数	参加者数	メダル数
個人 競技	陸上競技	20人	金10 銀11 銅6	17人	金13 銀8 銅2
	水泳	7人	金4 銀2 銅6	4人	金3 銀0 銅2
	アーチェリー	0人	金0 銀0 銅0	0人	金0 銀0 銅0
	卓球	7人	金2 銀3 銅2	5人	金2 銀2 銅1
	フライングディスク	9人	金1 銀1 銅4	8人	金0 銀1 銅3
	ボウリング	2人	金0 銀0 銅0	2人	金0 銀0 銅2
	個人競技計	45人	金17 銀17 銅18	36人	金18 銀11 銅10
団体 競技	バスケットボール(男子)	—		(九州ブロック予選出場)	
	バスケットボール(女子)	—		—	
	車椅子バスケットボール	(九州ブロック予選出場)		(九州ブロック予選出場)	
	ソフトボール	—		—	
	グラウンドソフトボール	(九州ブロック予選出場)		14人出場, 準優勝	
	バレーボール (聴覚男子)	—		—	
	バレーボール (聴覚女子)	—		—	
	バレーボール (知的男子)	—		—	
	バレーボール (知的女子)	—		—	
	バレーボール (精神)	(九州ブロック予選出場)		(九州ブロック予選出場)	
	サッカー	(九州ブロック予選出場)		(九州ブロック予選出場)	
	フットベースボール	—		—	
団体競技計	0人		14人		

(余白)

# 第20回全国障害者スポーツ大会に向けた障害者スポーツの普及拡大の取組について

## 1 取組の必要性

障害者にとってスポーツは、競技スポーツから、楽しむスポーツや健康維持のためのスポーツまで、その目的によって幅広いものとなっており、体力と健康の維持・増進、運動能力の向上とともに、自立意欲の向上と社会参加の推進に大きな役割を担っている。

このような中、平成32年に本県において、障害者スポーツの国内最大の祭典である「第20回全国障害者スポーツ大会」（以下「鹿児島大会」という。）を開催することは、全国から訪れる多くの選手達と競技や様々なイベント等を通じて交流を深め、障害者スポーツのより一層の振興や障害者の社会参加を推進する絶好の機会であり、また、本県選手が力強く競技することは、県民に大きな夢と感動を与え、県民の障害に対する理解と認識を深めることに大きく寄与するものである。

このため、本県からより多くの障害者スポーツの選手が鹿児島大会に参加し、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々と交流を深め、選手のもつ力を十分に発揮することができるよう鹿児島大会に向けて障害者スポーツの普及拡大に取り組む必要がある。

## 2 課題等の整理

鹿児島大会の参加選手の確保・育成方策等、鹿児島大会に向けて障害者スポーツの普及拡大に取り組むため、次の4点について整理する。

### (1) 鹿児島県の障害者スポーツの現状と課題

本県の障害者スポーツの現状と課題を整理する。

### (2) 鹿児島大会に向けた選手の確保・育成の基本的な考え方

鹿児島大会に向けた選手の確保・育成を図る上での基本目標、取組期間を整理する。

### (3) 今後の具体的な取組

鹿児島大会に向けた選手の確保・育成の基本的な考え方を踏まえ、全競技共通及び各競技別に具体的な取組を整理する。

### (4) 取組の推進体制

取組の推進体制について整理する。

(余白)

# 鹿児島県の障害者スポーツの現状と課題について

## 1 県障害者スポーツ大会の参加状況等について

### (1) 障害者数の推移と県障害者スポーツ大会の参加者数の推移

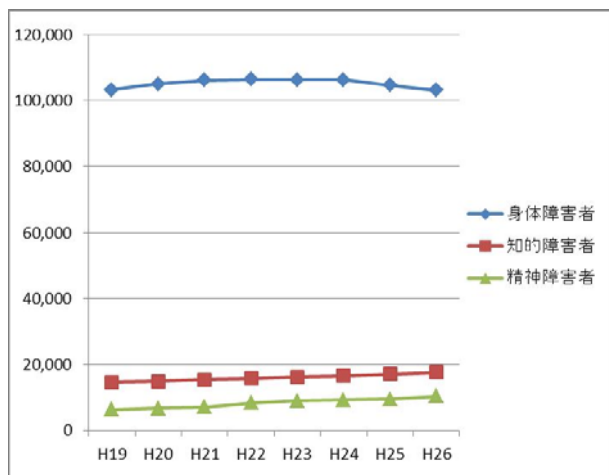
県内の障害種別ごとの手帳所持者数について、身体障害者は平成25年度から2年連続で減少したものの、知的障害者及び精神障害者はともに増加傾向にある。

県障害者スポーツ大会（以下「県大会」という。）の参加者については、知的障害者の参加者数が増加している一方、身体障害者の参加者数が減少しており、内部障害については平成26年度から2年連続で参加者がいない状況である。

なお、参加者総数は1,000人程度で推移している。

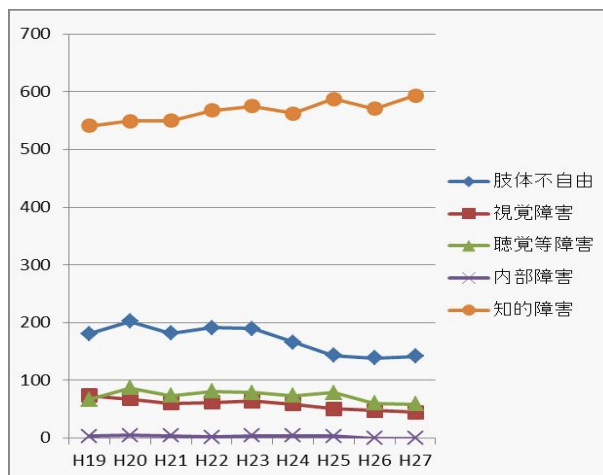
○障害者数の推移

(単位：人)



○県大会の参加者数の推移

(単位：人)



※レクリエーション競技を除く

## ア 障害者数の推移（手帳所持者数）

(単位：人)

障害別	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H19~H26 増減率
身体障害者		103,182	105,003	106,170	106,386	106,275	106,368	104,654	103,034	102%
知的障害者		14,645	15,002	15,436	15,880	16,224	16,675	17,210	17,688	120%
精神障害者		6,330	6,632	7,100	8,333	8,957	9,289	9,546	10,432	154%
計		124,157	126,637	128,706	130,599	131,456	132,332	131,410	131,154	107%

## イ 県大会の参加者数の推移

(単位：人)

障害別	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H19~H26 増減率
身体障害者	肢体不自由	181	202	182	191	190	166	143	139	142	78%
	視覚障害	74	68	60	62	64	59	51	48	45	61%
	聴覚等障害	67	87	74	81	79	74	79	60	59	88%
	内部障害	3	5	4	2	4	4	3	0	0	0%
	小計	325	362	320	336	337	303	276	247	246	76%
知的障害者	知的障害	541	549	550	568	575	563	588	571	594	110%
	知的障害 (レクリエーション)	188	206	221	190	215	175	181	183	186	99%
	小計	729	755	771	758	790	738	769	754	780	107%
合計		1,054	1,117	1,091	1,094	1,127	1,041	1,045	1,001	1,026	97%

## (2) 平成27年度県大会の参加状況（競技別，障害別）

参加者が少ない競技種目は、水泳（視覚，聴覚），アーチェリー（肢体不自由，聴覚），卓球（聴覚），フライングディスク（視覚）である。

なお，内部障害については，平成26年度県大会でも参加者はおらず，それ以前も3～5人と参加者が少ない。

障害別 競技別	肢体不自由	視覚障害	聴覚等障害	知的障害	内部障害	合計
陸上	75	23	30	346	0	474
水泳	15	1	2	31		49
アーチェリー	3		4		0	7
卓球	15	0	3	24		42
サウンドテーブルテニス		20				20
フライングディスク	34	1	20	145	0	200
ボウリング				48		48
レクリエーション				186		186
合計	142	45	59	780	0	1,026

## 2 団体競技の大会参加状況等について

### (1) 団体競技のチーム化の状況

全国障害者スポーツ大会（以下「全国大会」という。）の団体競技では，バレーボール（聴覚男女，知的男女），バスケットボール（知的女子），フットベースボール（知的）がチーム化に至っておらず，チームがある競技もチーム数が少ない。

競技種目	障害区分	チーム数	現状及び活動状況
車椅子バスケットボール	身体 (肢体不自由)	2チーム	・桜島杯，朝日九州大会などの大会に参加している
グランドソフトボール	身体 (視覚障害)	1チーム	・本県で唯一，全国大会に出場したことのある団体競技である ・これまで7回，全国大会に出場し，3位1回，準優勝3回の成績を残している
バレーボール(男)	身体 (聴覚障害)	チーム無し	・聾学校中等部，高等部では，体育の授業でバレーボールをしているが，それ以外の取組はなく，チーム化に至っていない
バレーボール(女)	身体 (聴覚障害)	チーム無し	
サッカー	知的	1チーム	・一部の特別支援学校で部活動が行われるなど，普及が進んでいる ・類似した競技であるフットサルから選手が転向するなど，選手層が拡大している
バスケットボール(男)	知的	1チーム	・男子チームは平成26年7月に発足した ・平成27年度は，特別支援学校でスポーツ教室を行い，その成果として特別支援学校対抗の大会を開催するなど，普及の取組が行われているが，女子チームのチーム化には至っていない
バスケットボール(女)	知的	チーム無し	
ソフトボール	知的	チーム有り※	※知的障害関係施設親善球技大会に出場するチームはあるが，全国大会出場を懸けた九州ブロック地区予選会に出場していない
フットベースボール	知的	チーム無し	・フットベースボールの体験教室等を開催するも，チーム化に至っていない
バレーボール(男)	知的	チーム無し	・平成27年度からバレーボール教室の開催が本格的に始まるなど，普及の取組が進められているが，チーム化には至っていない
バレーボール(女)	知的	チーム無し	
バレーボール	精神	チーム有り	・施設，病院単位でチームを編成している ・平成27年度の県ソフトバレーボール大会には，12チーム出場している



## (2) 団体競技の各種大会における参加者数の推移

### ア 県ソフトバレーボール大会（精神障害）

(単位:チーム,人)

	H21 (第1回)	H22 (第2回)	H23 (第3回)	H24 (第4回)	H25 (第5回)	H26 (第6回)	H27 (第7回)	※「—」と記載している 力所は、記録が無い ため不明
参加チーム数	7	—	7	15	11	12	13	
参加者数	—	—	125	266	175	176	236	

平成21年度から開催。参加チーム数は増加傾向である。

バレーボールは全国大会正式競技の中で、唯一、精神障害者が参加できる競技である。(精神障害ではソフトバレーボール球を使用)

優勝したチームは、全国大会の予選となる九州ブロック地区予選会に出場している。

### イ 桜島杯車椅子バスケットボール大会（肢体不自由）

(単位:チーム,人)

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	※参加チームには健常者 チーム1チームを含む。 (平成23年のみ健常者 チーム2チーム)
総数	総参加チーム数	4	4	5	8	8	8	3	
	総参加者数	40	39	43	65	78	76	35	
鹿児島県	参加チーム数	3	3	4	3	3	3	3	
	参加者数	33	31	36	30	32	33	35	

平成22年に桜島杯に名称を変更し、平成27年度で第6回目。前身の大会は、平成20年から「鹿児島県車椅子バスケットボール連盟設立記念車椅子バスケットボール大会」という名称で開催されており、県外からも複数のチームが参加。

平成27年度は九州大会が本県で開催されたことから、県外チームの参加がない。

### ウ (参考) 知的障害関係施設親善球技大会（知的障害）

(単位:チーム,人)

	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
総参加者数	837	906	786	877	865	857	902	942	962
ソフトボールチーム数	18	19	16	17	17	13	14	11	9

昭和55年から開催され、平成27年度で第36回目

ソフトボール、ソフトバレーボール、グラウンドゴルフ、ティーボールを実施。

平成25年度から参加者が増加傾向にあるが、ソフトボールの参加チームは減少傾向にある。

全国大会の正式競技であるソフトボールと異なるルールで競技しており、全国大会の出場を懸けた九州ブロック地区予選会には出場していない。

### エ (参考) 県知事杯フットサル大会（知的障害）

(単位:チーム,人)

	H22 第1回	H23 第2回	H24 第3回	H25 第4回	H26 第5回	H27 第6回
参加チーム数	22	22	32	35	32	31
参加者数	156	159	228	250	230	224

平成22年度から開催。参加者数は平成25年度までは増加傾向であったが、その後、2年連続で減少している。

競技者が全国大会の正式競技であるサッカーに転向するなど、サッカーの普及に関係している。

### 3 全国障害者スポーツ大会の参加状況等について

#### (1) 個人競技の参加状況

全国大会の個人競技の選手については、開催県から示される出場選手枠に基づき、県大会の成績等を参考に、県代表選手を選考している。

代表選手選考後に辞退があったため、アーチェリー競技に出場していない大会がある。

#### (2) 団体競技の参加状況

団体競技については、グランドソフトボール競技が過去5年間では平成26年を除く4大会で、全国大会に出場している。

全国大会に出場するためには、九州ブロック地区予選会で優勝する必要がある、車椅子バスケットボール、サッカー、バスケットボール（知的男子）、バレーボール（精神）は、九州ブロック地区予選会に出場しているものの、全国大会出場には至っていない。

#### (3) 全国大会開催県の選手数

全国大会開催県の選手数について、個人競技では参加選手枠が大幅に増枠され、先催県の例に従うと、本県開催時には約150人の出場が見込まれる。

団体競技では、九州ブロック地区予選会の出場に関わらず、開催県として出場枠が確保されるため、これまでの先催県ではいずれも、全ての団体競技に出場している。

(単位:人)

		開催年	H23	H24	H25	H26	H27	H32
		開催県	山口	岐阜	東京	長崎	和歌山	鹿児島
個人 競技	陸上	身体・知的	17	16	18	20	17	69
	水泳	身体・知的	4	5	6	7	4	20
	アーチェリー	身体		1	1			4
	卓球	身体・知的	5	5	5	7	5	20
	フライングディスク	身体・知的	6	7	7	9	8	26
	ボウリング	知的	1	1	2	2	2	12
	個人競技計			33	35	39	45	36
団体 競技	車椅子バスケットボール	肢体不自由	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	12
	グランドソフトボール	視覚	14	13	15	(予選出場)	14	15
	バレーボール(男・女)	聴覚						24
	サッカー	知的	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	16
	バスケットボール(男・女)	知的					(予選出場)	24
	ソフトボール	知的						15
	フットベースボール	知的						15
	バレーボール(男・女)	知的						24
バレーボール	精神	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	(予選出場)	12	
団体競技計			14	13	15	0	14	157
総計			47	48	54	45	50	308

#### 4 県内の主な障害者スポーツ活動団体

県や市町村、福祉団体や個別の競技団体以外に、県内で活動している主な団体は次のとおり。

##### (1) 鹿児島県障害者スポーツ協会

各都道府県に組織されており、障害者スポーツの振興を図るため、(公財)日本障がい者スポーツ協会等と連携し、各種大会の開催、研修・講習会の開催を行う。

##### (2) 鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会

障害者スポーツ指導者のボランティア組織。各都道府県に組織されており、(公財)日本障がい者スポーツ協会、鹿児島県障害者スポーツ協会等と連携し、事業協力や地域での障害者スポーツの普及指導を行っている。

○本県の障害者スポーツ指導員数

(単位:人)

	初級	中級	上級	計
鹿児島県	221	34	9	264
全国	19,020	2,859	767	22,646

##### (3) スペシャルオリンピックス日本・鹿児島

知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を提供する国際的な組織であるスペシャルオリンピックスの地区組織。

本県では、主に鹿児島市と出水市で陸上、水泳、バドミントン、バスケットボールなどのスポーツプログラムを実施している。

#### 5 本県の障害者スポーツの課題

##### (1) 障害者スポーツの普及拡大

全国大会の開催県では、個人競技の参加選手枠が大幅に増加し、団体競技では九州ブロック地区予選会の成績に関わらず出場できることから、鹿児島大会開催に向けて、より多くの障害者が大会に参加できるよう、障害者スポーツの普及拡大が必要である。

##### (2) 未普及競技種目の普及、団体競技のチーム結成への支援

個人競技について障害別では、視覚障害及び肢体不自由の参加者の減少が著しく、また、競技別では、参加者がいないまたは少ない競技があるため、各障害ごとの競技の普及が必要である。

団体競技については、チーム化に至っていない競技について、チーム化に向けた取組を支援するとともにチーム拡大等に努める必要がある。